

2020.11.17

空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル

空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル

設立趣旨

2020年3月25日

2018年12月、「空の移動革命に向けた官民協議会」(事務局:経済産業省、国土交通省)においてロードマップがとりまとめられ、いわゆる空飛ぶクルマは、都市交通、観光、医療や災害対策など、幅広い分野での利活用が見込まれる新たな産業、サービスと期待されているが、その実現には解決すべき課題も少なくない。

そこで、このたび、2025年大阪・関西万博をひとつのマイルストーンとして、関係者間で精力的に協議や実証実験を重ね、国の官民協議会の議論に資する具体的な提案を行うほか、様々なステークホルダーと連携して、社会受容性の向上を図るなど、空飛ぶクルマの実現に向けた取組みを加速させていくことを期して、具体的かつ実践的な協議・活動の核となる「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル」(「ラウンドテーブル」という。)を設立する。

空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル

Mission

- I: “空飛ぶクルマ”について、国の「空の移動革命ロードマップ」が示す2030年代の実用拡大を目指しつつも、当面、2025年大阪・関西万博を共通のマイルストーンに据え、将来、大阪でのビジネス化を視野に入れている事業者を中心に、特に制度設計・ルール作り(協調領域)に資する、実務的な協議や実証実験等を精力的に進め、**具体的かつ現実的な課題の抽出や提案を行うワーキンググループの機能**を果たし、国の「空の移動革命に向けた官民協議会」と連携・連動しながら、社会実装に向けた取組みを加速させる
- II: “空飛ぶクルマ”の社会実装を見据えた、新たなサービスや価値の提供等について、様々なアイデアをもつ事業者を加えた**プラットフォームの機能**を果たし、**様々な掛け合わせ(共創、協業)**を生み出していく
- III: “空飛ぶクルマ”のある社会について、様々な角度・観点から多様な人々とオープンに意見交換する**フォーラム・ワークショップの機能**を果たし、課題はもとより、活用可能性、有用性について建設的な協議を行い、**社会の期待や需要に適した、新たなモビリティ・価値創造をめざす**

空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル

●構成・機能イメージ

